

平成29年度学校評価表(評価項目・評価の観点)

学校番号	75
------	----

長野県梓川高等学校

5: 十分 4: ほぼ十分
3: どちらともいえない 2: やや不十分
1: 不十分

* 「評価項目」の () 数字は、本校の今年度重点目標の項目番号

領域	対象	H29 評価項目	H29 評価の観点	中間時の成果と課題	評点	具体的な改善策・向上策	
教育	教育課程	(1) 教育課程研究とコース制の充実	コース制について、本校で実施している内容を具体化かつ発展させ、外部に正確に発信できているか。	コースの内容を再吟味して、よりよい方向を模索した。外部への発信については、工夫の余地がある。	3	再来年度以降、クラス減の可能性もあるため、その中でコース制をどう活かしていくか、外部の意見を参考にするとともに、教科間での論議を活発化して、策定する。	
			生徒の要望や進路状況に応じた、カリキュラム・選択群の研究・検討を行い、特色ある教育課程づくりを行っているか。	前年度の選択群を見直し、生徒が選択しやすい科目配置となるよう工夫し、変更を行った。	3	取りかかりをもっと早くし、委員会のほうで主体的に策定することが必要である。特に、クラス減に伴う教育課程の改編には、十分な時間を必要とするので、計画的に進める必要あり。	
	学習指導	(1) 基礎基本の定着と個の興味関心に応じた指導	生徒の学力実態に対応し、指導・評価の工夫や教材作成に取り組んでいるか。	基礎基本をどのように授業・学校生活全般を通して伝えていけるか、生徒アンケートを含め総合的に判断し改善に取り組	4	授業アンケート項目の再考により、各自が抱えている問題をより明確にし、授業改善についてより具体的な方法を模索することができると思われる。	
		授業評価による授業改善	授業アンケート、定期考査等を通じ、生徒の理解、関心の度合いを図りながら授業の計画・改善に努めているか。	授業アンケートの結果を吟味し、これからの学習活動に活かしていってもらえるとよい。客観的に授業内容の改善点を示し	3	授業アンケートの方式の改善により、迅速に成果を上げるシステム構築を検討したい。(生徒の評価を速やかに授業改善へと繋げられる形に)	
	活動	進路指導	(1) 3年間を見通した計画的な進路指導	学年や個に応じた進路指導計画の策定と適切な進路情報を幅広く収集整理し、積極的かつ適正に活かしている	各学年ごとに計画立案し、着実に計画を実施してきている。各学年時期を見て必要な情報を生徒に流し、対処してきてい	4	3年生は進路が概ね決定した。その間情報を適宜流し、必要に応じて個別相談を実施。2年生にも少しずつ情報を流し、活用し始めている。
			進路希望の実現と職業理解の促進	働くことの意味と責任を自覚し、社会の一員として生きる力を育成するために、1学年からの意識付けや、ワーキングセミナー、各種適性検査等の実施ができたか。	1年は将来を見据えて、進路を大きくくりで考えさせており、二年は次年度の就職・進学に繋がる指導に入り、3年は進路実現に向け進行	4	3年は年間でのかなりのガイダンスをこなし、進路実現に結びつけた。1, 2年生も学年ごと課題をクリアアベックガイダンス等を実施。特に2学年は3年に向け、より進路実現の課題に取り組む始めている。
	生徒指導	生徒指導	全職員の協力で生徒指導に当たり、集団生活のマナーやルール遵守の定着を図っているか。	様々な問題に対して、担任・学年・管理職とともに、連携を取り合い、チームで対応する体制をとっている。	4	引き続き、問題行動を未然に防ぐよう、全職員で継続していきたい	
			生徒相談体制の充実	生徒の状況を把握し、関係者間の連絡を密にして適切な支援体制を整えているか。	困難を抱える生徒や保護者のカウンセリングを行っている。また、様々な問題、課題をSC、SSWを含めたチームで対応して	4	生徒状況の把握に努め、適切な支援につなげるとともに、定期的な面談もSC、SSW等とも連携し、継続的に支援を進めていきたい
	生徒会	(3) 自主的、主体的に行動する生徒の育成	生徒の自主活動に適切な助言と指導を行い、責任感・自治能力を育てているか。各活動を安全に行っているか。	平時の「挨拶運動」、梓水祭でのクラス発表等、生徒の自主的提案を取り入れ新たな取り組みを行っている。各委員会の通年活動、仕事のバランス調整が今後の課題である。	4	後期執行部でも、より良い変化に向けて集中ミーティングにて目標を設定、行事等に反映させるため取り組んでいる。これらの活動に対しサポートを行う。	
	学校運営	組織運営	(1) 学校評価活動の充実	学校評価活動を通して、教育活動の向上・改善を図っているか。	各行事終了時に、アンケートを実施して改善に努めている。学校評議員会などを通して、教育活動の向上・改善を図っている。	4	学校評価アンケート等の回収率向上に工夫をした。アンケートを活用して、広くさまざまな意見を聞きながら、教育活動の向上・改善を図りたい。
情報提供			本校の教育活動に関する情報や資料を、積極的・迅速に公開・提供をしているか。	「梓川高校だより」を引き続き発行している。また、HPの見直し・更新なども積極的に取り組んでいる。	4	今後もさらにHPや「梓川高校だより」の充実を図りたい。また、マスメディアへの情報発信も積極的にやりたい。	
地域連携		(1) 地域の声を教育活動に生かす	様々な場面で地元との連携を図り、地域の声を教育活動に生かしているか。	地元の中学との連携をとっている。「出前授業」を行った。地域の各種行事にも積極的に参加した。	4	地域に出でた活動の行事に積極的に参加して地域の方々との更なる連携を深めていけるようにしたい。また、「出前授業」等で地元の中学との連携も更に深めていきたい。	
		教育力の活用	地域の教育力の活用を推進し、生徒の学習意欲を引き出しているか。	福祉コミュニケーションコースでは手話や点字の講師を活用した。信州学ではさまざまな学習の場面で地域の方に講師を依頼し、授業等が展開できた。	4	今後も地域やOBの方々のお借りしながら、「信州学」や体験学習がさらにによりよい学習になるよう、改善、継続していきたい。	
校内研修		授業・学習指導法の改善	(1) 授業・学習指導法の改善	職員が積極的に取り組める、研修会及び公開授業・研究授業等がなされているか。	校内、校外向けの公開授業を実施した。研究授業も実施した。参加者の増加を一層図ることが課題である。	4	来年度も内容を充実させて実施していきたい。さらに、来校者(中学生・保護者等)ができるだけ参加しやすい日の開催を工夫、計画していきたい。
			生徒の理解	多様な生徒の悩みを理解し、支援に結びつく研修となっているか。	様々な場で、生徒についての情報共有を行うようにしている。カウンセラーの協力も得て生徒理解・生徒支援の効果を上げている。	4	必要な場合、各関連機関と連携を取ることが出来ている。さらに、個々の生徒理解・支援のために継続していく必要がある。